

平成 30 年秋期 富岡第二地区推進連絡会

1 日時

平成 30 年 11 月 16 日（金） 18:00～20:00

2 場所

富岡会館

3 参加者

(地域側) 自治体等地域団体関係	21 名
学校関係	4 名
(支援チーム、その他行政側)	
区役所	11 名
区社会福祉協議会、地域ケアプラザ	4 名

4 意見交換要旨

(1) 富岡第二地区社会福祉協議会（事務局長）

第 3 期地域福祉保健計画（H28～H32）の活動状況

主な活動・・・スリーAサロン、認知症サポーター養成講座、社明大会、ミニ集会、トミニ寄席、秋季運動会、ウォークラリー（参加 241 名）、グラウンドゴルフ、かもめ体操、障害児の余暇支援事業、餅つき大会（1 月 26 日開催予定）

まとめ・・・地域イベント「ボウリング大会」→「ウォークラリー」により子供連れ家族による参加が増加、炊き出しで豚汁を提供。その他、参加者を増やす工夫として、広報チラシの配布、保育園の運動会など地域のイベントとの重複を避けた日時設定、景品の準備を行った。

(2) 地区民生委員・児童委員の活動について

（地区民児協会長、主任児童委員）

全 9 名で活動、月 1 回地区民生委員・児童委員協議会定例会

主な活動・・・75 歳以上一人暮らし高齢者を対象とした安否確認見守り訪問、ティッシュ配布、3 回／月のお弁当配食、施設見学、動揺を歌う会、赤い羽根募金、東風祭、フリースペースころころ、児童教室の手伝い、子育てしやすい地域づくりを進める会、三春学園訪問、保育園（富岡スマイル・ほしの子）訪問、小・中学校の会議出席、赤ちゃん訪問（1 回／月）

まとめ・・・少人数だがまとまりがある、仲間と一緒にゆとりをもって行っている。地区全体の高齢化により、見守り対象者は増加傾向。後任探しが課題。

(3) ジュピのえんがわサロン (代表)

空き家を活用した「茶の間」支援事業、賛助会員は個人 94 名、企業・団体 16 団体、運営資金は 300 円/会員の賛助会費と駄菓子販売の売り上げ、活動開始後 2 年半が経過、その間地域にどう影響を与えたか。

主な活動・・・駄菓子販売、TV取材 2 件、こどもの日スペシャル「カレーパーティー」、街歩き、えんがわ de コンサート、えんがわ de 野点 (お茶会)、新鮮野菜・パンの販売、スリーA、健康体操、パソコン教室、映画同好会、紙芝居、書初め大会、ヨコハマママナビ、クリスマス会、ジュピのちょこっとお助け隊 (庭木の手入れ、家具の移動、草むしり等)、区民まつりいきいきフェスタ参加、6 団地で「つながりステーション」、つながりワークショップ、つながりライブラリー

まとめ・・・地域に根付けるよう努力してきた、創生期から成熟期へ (今では行事予定カレンダーがびっしり埋まる)、引き続き多種多様な企画を、目標は賛助会費の値下げ (300 円/会員を 100 円/会員へ) と同時に賛助会員の拡大を図る

5 質疑

(区役所) 男性の参加が多い事業は？

→認知症予防関係の事業には男性の参加が少ない。グラウンドゴルフは比較的男性の参加が多く 4 割くらい。富岡第二地区社協の三大イベント、運動会、ウォークラリー、餅つき大会は、家族連れでお父さんの参加が多い。

→平均寿命と健康寿命のデータを男女で比較すると、80 歳過ぎで認知症の発症率が増加する傾向があるが、そもそも男性の平均寿命が 81 歳なので、男性の場合は健康寿命を終えてからの残りの寿命、期間が少ない。このことが、スリーA等の認知症予防のイベントに男性の参加が少ない原因のひとつではないか。

(区役所) イベント参加者に、次世代を担う人材の候補は見つけれられたか？

→現役世代は、仕事が忙しくイベントの運営は負担になる。

(区社協) 新たな事業のアイデアはあるか？

→新たなイベントを企画すると言うより、イベントの内容、運営方法の見直し、改良をしていきたい。認知症対策については、今後ますます必要性が高くなっていくと感じている。

→イベントの企画・運営は実行委員会方式で、三大イベントそれぞれ部会を設置して、部会でより詳細な議論を詰めたうえで、全体の委員会で承認するというしくみをつくった。

→地区連合として「通学児童の見守り」を検討している。「子供は地域の宝」であるとの認識のもと、無理のない範囲で、朝のほんの 30 分を使って、大人が出てきて、特に京急富岡駅前後の歩道のない区間の見守りをしたいと考えているが、課題も残っている。

(連合) シーサイドコーポ(国道 16 号まで坂道、5 階建てマンション・エレベーターなし)の地区は、高齢者の買い物が不便で、対策が必要と感じている。磯子区や港南区は移動販売の事例があるとのことで、区役所で情報収集できないか。

→移動販売の必要性は高いと認識している。ただし、スーパー側も十分な売り上げが見込めない限りは、事業の継続は難しい。移動販売でどのような商品をそろえるのか、あらかじめ Web を通じて注文する方式が良いのか、具体的に検討を進める必要がある。

→富岡第一、第三地区でゴルフカートによる地域の新たな交通手段確保の社会実験を行っている。この取組は、スーパーによる事業ではなく、あくまで横浜市・京浜急行による社会実験で、モビリティ財団から助成金を受けて行っている。利用率、利便性については、実験終了後、横浜国立大学が分析を行う予定。

(地区社協) 地区社協、区社協、地域ケアプラザ、自治会の連絡会が行われているのは富岡第二地区だけである。類似イベントの重複を回避したり、アイデアを共有できたりメリットも大きいので、他地区でも同様の連絡会を立ち上げるのが良い。

(区役所) 区役所内でアイデアを募ったところ、プラスチックカップを使ったスポーツスタッキングが、地域の子供達の遊び、高齢者の認知予防として楽しんでもらえるのではないかと、という意見が出た。非常に面白いアイデアと感じている。

(区役所)「ジュピのえんがわ」の取組は非常に幅が広い、次々とアイデアが出てくるコツは？

→「どの様なイベント・活動であれば自分達が楽しいか」という視点で考えている。自分達が楽しむことしか考えていない。「ジュピのちょこっとお助け隊」も男性の参加を増やしたいという思いがあって、現役時代に磨いた技術、機械設備の取扱いや剪定等で、男性陣に活用してもらおうべく企画したものである。

(区役所)「ジュピのえんがわ」が取材を受けた内容は、韓国の放送局「ディライブTV」で、11月22日(木)PM11:00~11:50「ソウルの希望」で放映される予定。